

氏名	高 橋 香 代		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1394 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和58年 9 月30日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	原発性腎疾患における抗補体活性の検討		
論 文 審 査 委 員	教授 長島秀夫	教授 木村郁郎	教授 折田薫三

学位論文内容の要旨

腎疾患における免疫学的関与を検討するために、患者血清の抗補体活性を測定し、他の血清学的所見、生検腎組織所見、腎機能との関連について考察した。

抗補体活性の陽性率は、慢性腎不全において93%と著しく高く、次いで急性糸球体腎炎で50%に認められた。生検腎組織所見では Sclerosing glomerulonephritis の66%に陽性が認められ、又糸球体への免疫グロブリンの沈着と抗補体活性には相関はみられなかった。急性糸球体腎炎では、抗補体活性陽性例に高 ASLO 値、高 γ グロブリン値が認められ、抗原抗体複合物の関与が推測されたが、慢性糸球体腎炎では、抗補体活性は BUN、S-Cr、PSP 15分値、内因性クレアチニンクリアランスと相関し腎機能低下とともに抗補体活性を有する因子が出現することがわかった。

以上のような腎不全血清における抗補体活性を有する因子について基礎的検討を加え、この因子は heat-stable で classical pathway を介して作用する β 領域の分子量 2.5万以上の抗原抗体複合物とは異った未知の尿毒物質であると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は原発性腎疾患における抗補体活性を検討したもので、腎疾患における抗補体活性、抗補体活性を有する因子について新しい知見を加えたもので臨床的に価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。